宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第３集

白ヶ野第３遺跡Ｂ地区

県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書（3）

1997. 3

宮崎県埋蔵文化財センター

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しましては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本書は、宮崎市と清武町にまたがる時屋地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、本年度事業地区内で実施した白ヶ野第3遺跡B地区の発掘調査概要報告書です。

調査の結果、縄文時代早期の遺構や遺物、縄文時代後期から晩期の遺物、古代の遺構や遺物など、当地の歴史を考える上で重要な資料を得ることができました。特に古代に関しては竪穴住居3軒がまとまって検出されており、そのカマドの形態差や、周辺で出土した墨書土器との関係が注目されます。

それらの概要をまとめた本書が学術資料として、あるいは学校教育や生涯学習の資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを期待します。

最後になりましたが、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関をはじめ、ご指導ご助言をいただいた先生方、ならびに時屋土地改良区など地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長　藤本健一

凡　　例

1. 本書は、県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う白ヶ野第3遺跡Ｂ地区の発掘調査概要報告書である。
2. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体　宮崎県教育委員会

調査調整　宮崎県教育庁文化課

調査担当　宮崎県埋蔵文化財センター

所長	藤本　健一
副所長兼調査第一係長	岩永　哲男
庶務係長	三石　泰博
調査第二係長	北郷　泰道
主査（調整担当）	谷口　武範
主事（調査担当）	松林　豊樹
調査員（嘱託）	児島　由紀

3. 本書に使用した上空からの写真撮影は、株式会社スカイサーベイに委託した。
4. 本書の執筆・編集は松林が行った。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに……1

第Ⅱ章　調査の概要……2

　1　遺跡の位置と環境……2

　2　調査区の設定……2

　3　層　序……4

　4　Ⅰ区の調査……5

　5　Ⅱ区の調査……6

　6　Ⅲ区の調査……7

第Ⅲ章　まとめにかえて……8

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置図（1/50000）……1

第2図　調査区グリッド設定図（1/1200）……3

第3図　Ⅰ区土層図（1/40）……4

第4図　Ⅰ区平面図（1/1000）……6

第5図　Ⅱ区平面図（1/1000）……7

第6図　Ⅲ区平面図（1/1000）……7

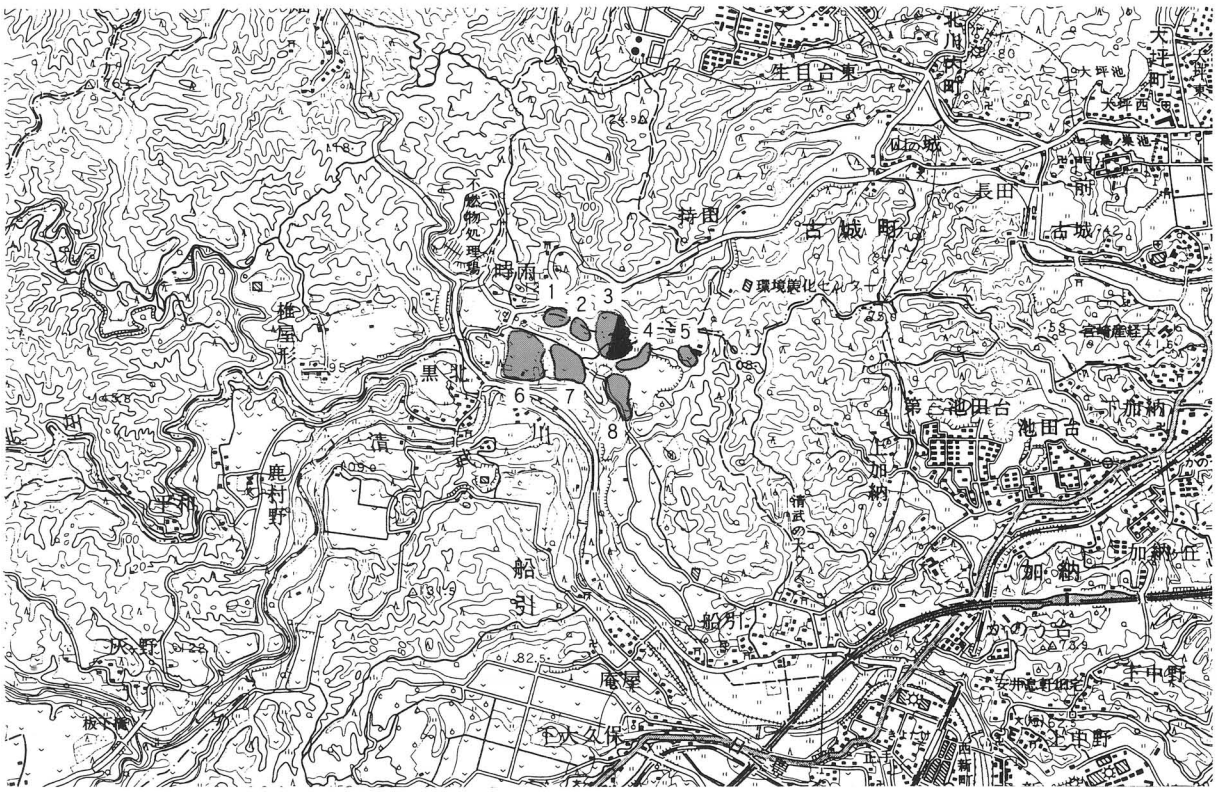
第Ⅰ章　はじめに

時屋地区の県営農地保全整備事業は平成元年度から平成10年度までの予定で約60haの面積を対象にほ場整備を行うもので、それに伴う発掘調査が平成3年度から以下のように行われている。

調査年度	遺　　跡　　名	調査主体
平成3年度	椎屋形第1遺跡	宮崎市教育委員会
平成4年度	椎屋形第2遺跡	宮崎市教育委員会
平成5年度	上の原遺跡	宮崎市教育委員会
平成6年度	上の原第2遺跡・第3遺跡	宮崎県教育委員会
平成7年度	上の原第2遺跡・第3遺跡・白ヶ野第3遺跡	宮崎県教育委員会

平成6年度以降の調査対象地に関しては宮崎市と清武町にまたがって所在していたため、協議の結果、県教育委員会が調査を実施している。平成8年度の調査対象となった白ヶ野第3遺跡B地区も同様であったため、関係諸機関による協議の結果、県教育委員会が調査を実施することとなった。

調査は、平成8年5月1日から平成8年10月15日までの期間行われた。



1. 上の原第3遺跡　2. 上の原第4遺跡　3. 白ヶ野第3遺跡
4. 白ヶ野第2遺跡　5. 白ヶ野第4遺跡　6. 上の原第2遺跡
7. 上の原第1遺跡　8. 白ヶ野第1遺跡　※ ■ は今回調査地

第1図　遺跡の位置（1/50000地形図『宮崎』より）

第Ⅱ章　調査の概要

1．遺跡の位置と環境

当遺跡を含む時屋地区の遺跡群は宮崎市大字細江字時雨柳迫と宮崎群清武町大字船引字上の原・白ヶ野にまたがる地域に所在し、今回調査した地区は標高90m内外の台地上に立地する。

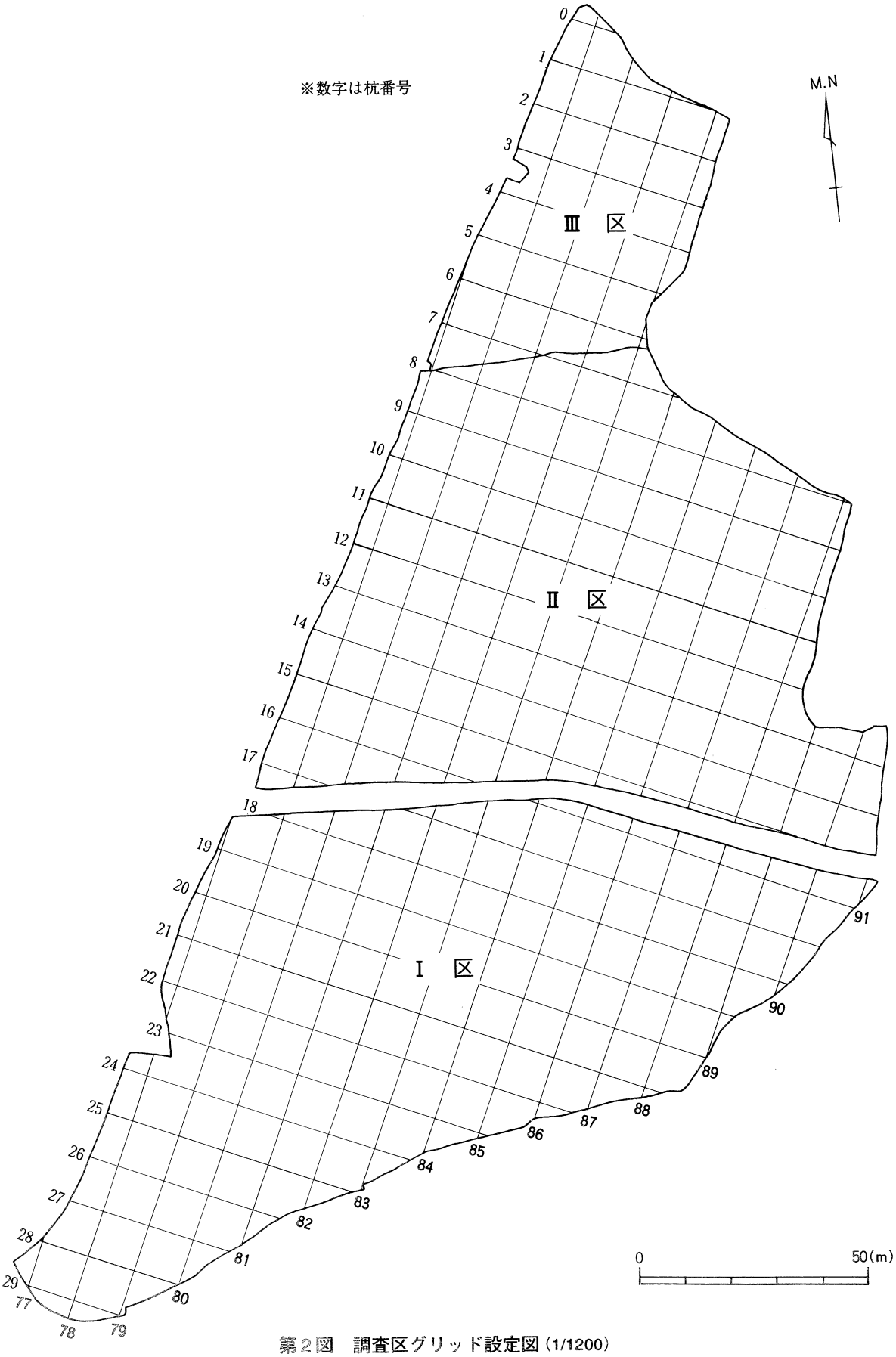
白ヶ野第3遺跡に関しては昨年度同事業で調査を実施しており、これを「A地区」としている。また、昨年度から今年度にかけて東九州縦貫自動車道建設事業に伴う調査も実施されており、これは「白ヶ野遺跡」として扱っている。これらの遺跡の位置や関係については本報告の時点であらためて整理を行う予定である。

前章であげたように、周辺の遺跡は同事業に伴ってかなり広範囲で調査され、様々な時代の遺構・遺物が検出されている。周辺の遺跡の概要は以下のとおりである。

遺　跡　名	調査年度	調査主体	事　業　名	遺　跡　の　時　代
上の原遺跡	平成5年度	宮崎市教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	旧石器時代・縄文時代草創期・早期、古代
上の原第1遺跡	平成7年度	宮崎県教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	縄文時代草創期・早期・中期～後期、古墳時代前期
上の原第1遺跡B地区	平成7年度	宮崎県教育委員会	東九州縦貫自動車道建設事業	旧石器時代
上の原第2遺跡	平成6年度	宮崎県教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	縄文時代早期・後期・古墳時代前期、中世～近世
上の原第3遺跡	平成6年度	宮崎県教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	縄文時代早期、古墳時代前期
上の原第4遺跡	平成7年度	宮崎県教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	縄文時代早期、古墳時代
白ヶ野遺跡	平成7・8年度	宮崎県教育委員会	東九州縦貫自動車道建設事業	縄文時代早期・中期～後期(白ヶ野第2・第3遺跡)
白ヶ野第1遺跡	平成7・8年度	清武町教育委員会	県営ほ場整備事業(船引地区)	旧石器時代、縄文時代早期・前期、古代
白ヶ野第3遺跡A地区	平成7年度	宮崎県教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	縄文時代早期
白ヶ野第3遺跡B地区	平成8年度	宮崎県教育委員会	県営ほ場整備事業(時屋地区)	縄文時代早期・後期～晩期、古代、中世
白ヶ野第4遺跡	平成8年度	清武町教育委員会	県営ほ場整備事業(船引地区)	縄文時代早期

2．調査区の設定

調査対象地は約25,000m²におよぶ広大なもので、表土除去後の廃土置き場の都合などから大きく3つの区画に分けて調査を実施した。最初に調査を開始した最も南側の区画から順にⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区とした。また、前年度までに調査された地区と整合させるため、主軸の共通する10mグリッドを調査区全面に設定した。

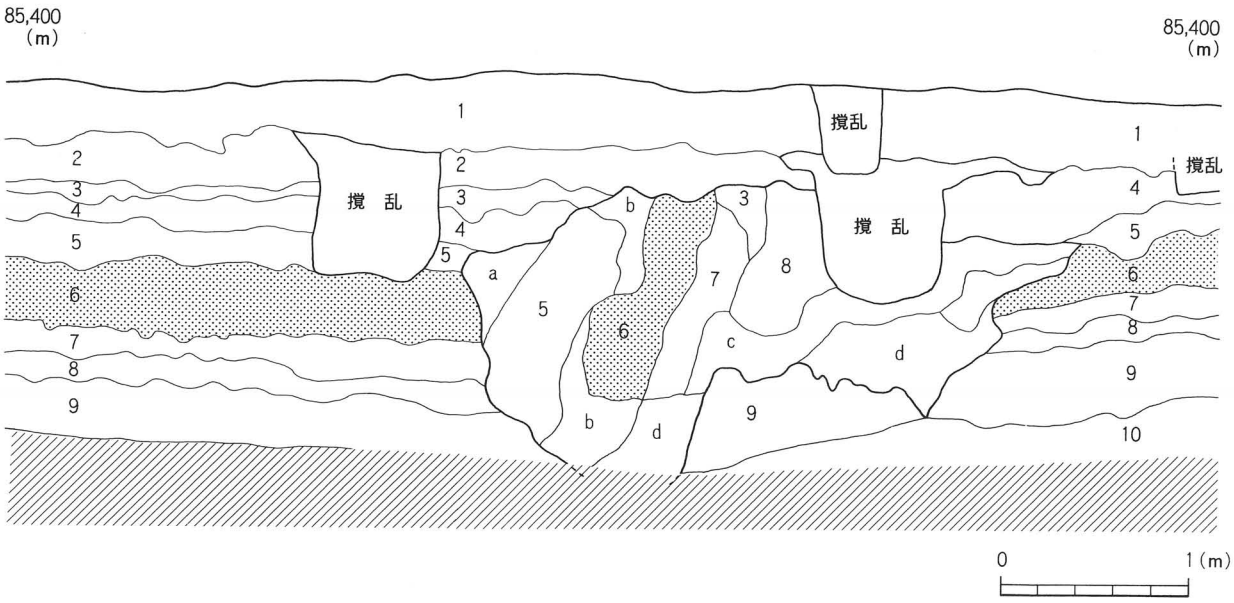


第2図　調査区グリッド設定図（1/1200）

3. 層序

基本的な層序は第3図のとおりだが、2～5層に関しては堆積がみられないところも多い。遺物包含層としてとらえられたものは4、5、7、8層である。4、5層は縄文時代後・晩期と古代の遺物が混在しており、旧谷地形の部分にしかみられなかったことから二次的な堆積層である可能性が高い。7、8層は縄文時代早期の遺物包含層である。

なお、第3図はⅠ区の谷1西端の土層断面であり、中央部に風倒木の影響とみられる層位横転がみられる。



第3図　Ⅰ区土層図(1/40)

1層	黒褐色土（表土）	耕作土
2層	黒色土	黒色・暗橙色のスコリアを多く含む。旧耕作土か。
3層	暗褐色土	きめが細かく、しまりがない。旧耕作土か。
4層	褐色土(包含層)	6層の二次堆積層とみられ、しまりがなくわずかに火山ガラスを含む。
5層	黒色土(包含層)	きめが細かく、しまりがない。
6層	暗黄橙色土	いわゆるアカホヤ火山灰
7層	黒色土(包含層)	硬質のローム層
8層	暗褐色土(包含層)	硬質のローム層
9層	明褐色土	7、8層よりはやや軟質で、わずかに粘性に帯びる。
10層	明褐色土	いわゆる小林軽石のブロックを少量含む。

a層　4層がやや白く濁った土

b層　4層に6層のブロックが少量含まれる土

c層　6、7、8層ブロックの混合土

d層　6、7層ブロックの混合土

4. Ⅰ区の調査

Ⅰ区は近代の整地により旧地形がかなり改変されており、表土以下には10層以下の層が現われる部分もみられた。この結果、Ⅰ区には旧地形として3つの丘陵突出部と2つの浅い谷が存在することが推測された。また、ほ場整備事業の計画ではⅠ区は盛土を施す区域であったため、谷1の部分以外は表土直下での遺構検出にとどめた。

検出された各時期の遺構・遺物に関しては次のとおりである。

縄文時代早期

Ⅰ区においては、3ヵ所に遺構・遺物の集中がみられるが、概して遺物の出土は少ない。谷1南西側の丘陵突出部では焼けた小礫が広がっており、その中から4つの集石遺構（SⅠ1～4）が検出された。これらの集石遺構はSⅠ2が浅いレンズ状の落ち込みを持つ以外、ほかの3基はすべて深さ40～50cmの掘り込みを有する。また小礫の広がりの中にはわずかな土器や石器がみられた。

谷1と谷2に挟まれた丘陵突出部では2基の集石遺構（SⅠ5、6）が検出された。この2基は径が50cmほどの掘り込みを有する小規模なもので、遺構を構成する礫数は少ない。

谷2の北東側の丘陵突出部では5基の集石遺構（SⅠ7～11）が検出された。この5基は形態的に非常に類似しており、すべて径1m以上で深さ40cmほどの掘り込みを有する。

SⅠ1～4、7～11はそれぞれごく近接してつくられていることは、遺跡中における空間の利用を考える上で注目される。

縄文時代後期～晩期

この時期の遺物はすべて南西よりの谷1に堆積していた4層中から出土した。この層は前述のとおり二次堆積層と考えられるため、遺物も谷上位からの流れ込みの可能性が高い。また、この時期のものと考えられる遺構は検出されていない。

古代

遺構としては4層上面において3軒の竪穴住居跡が検出された。この3軒はいずれも谷1の東側緩斜面につくられており、それぞれ形態の異なるカマドを伴う。

SA1は検出面から床面までの深さが20cmあまりであったが、北よりの壁面中央部に付設されたカマド煙道部分の天井が残存していた。

SA2は検出面から床面までの深さが50cmほどで残りが良かったものの、カマド煙道部に天井は見られなかったため、溝状の煙道であった可能性が考えられる。また、カマドの両脇には意識的な掘り残し部分があり、棚状の施設と考えられる。床面は6層と7層ブロック混合土による貼床である。

SA3はSA1、2よりもひとまわり大きく、2つのカマドを持つ。カマドの形態はそれぞれがSA1とSA2のものに似ている。

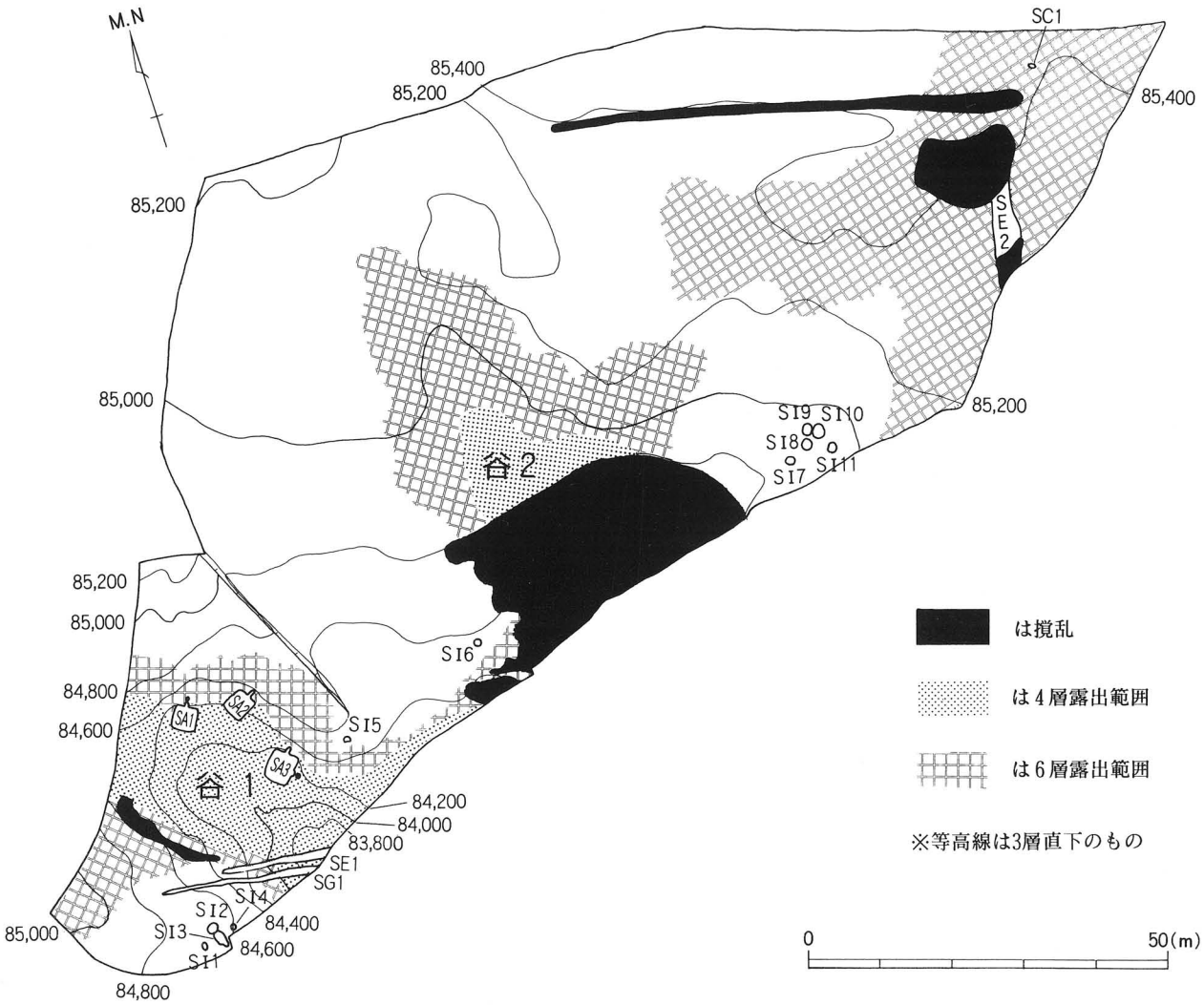
この3軒の竪穴住居跡から出土した遺物については整理中であるため詳細は不明だが、調査時点での印象としてはさほど時期差は感じられず、概ね10世紀代頃の所産とみられる。

また、このほかにもSE1やSG1は4層上面で検出されており、この時期の遺構である可能性が高い。

遺構以外で検出された遺物のほとんどは4層中からの出土であるため、谷上位にあたる調査区西にもこの時期の遺構が存在する可能性がある。

中世

この時期の所産と考えられる遺物は出土していないが、ＳＥ2の埋土には白ボラの自然堆積層がみられたため、少なくとも中世以前の遺構と考えられる。

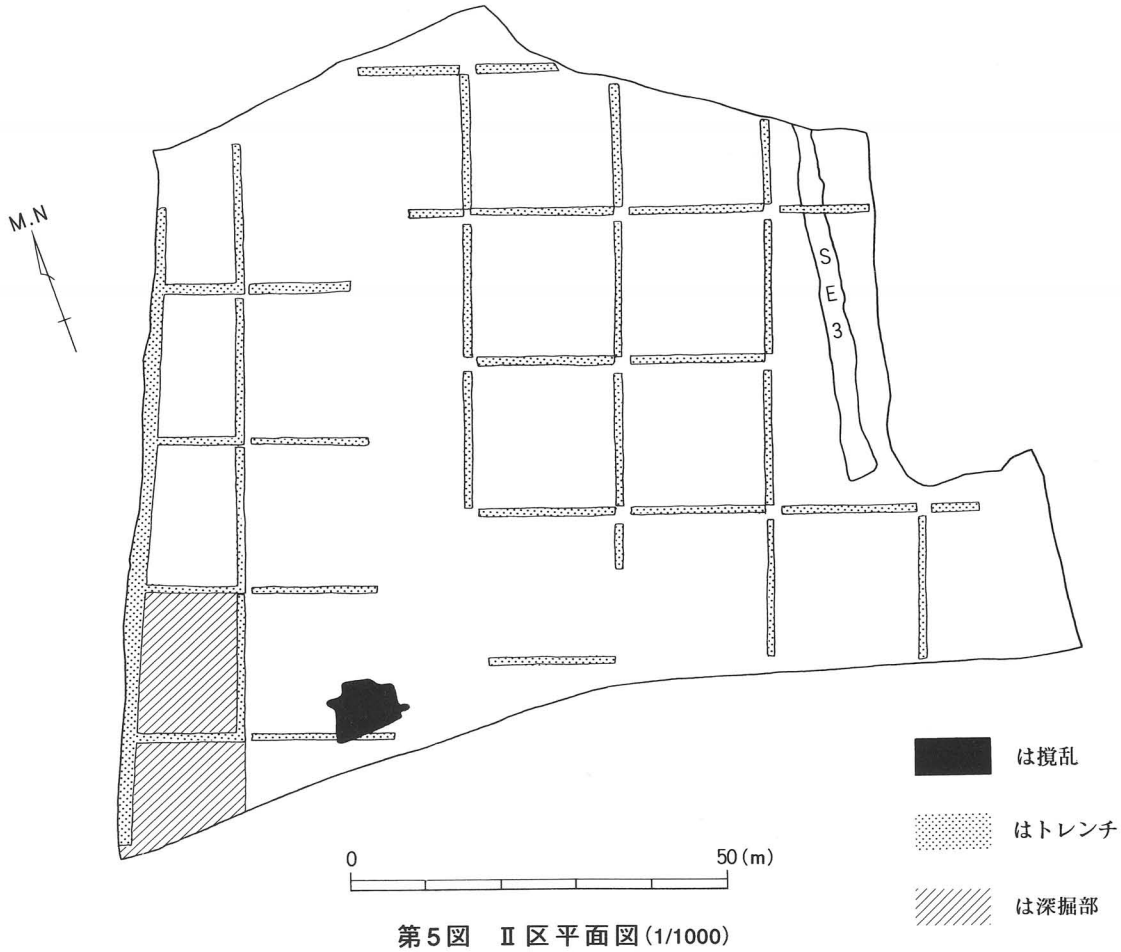


第4図　Ⅰ区平面図(1/1000)

5.　Ⅱ区の調査

Ⅱ区では1層を機械力による表土除去後、6層上面において精査を行ったが、遺構はＳＥ3以外には検出されなかった。次に6層を除去後、7層上面でも精査を行ったが、遺構は検出されなかったため、ほぼ20m間隔のトレンチを掘り、10層上面までの状況を確認した。その結果、1つのトレンチ以外はほとんど遺物の出土はなかった。そのため、このトレンチの周囲だけを9層上面まで掘り下げ、7・8層中の遺構・遺物検出を行った。遺構は検出されなかったが、遺物は数百点が出土した。

Ⅱ区で唯一検出された遺構であるＳＥ3は、Ⅰ区において検出されたＳＥ2と同様に埋土に白ボラがみられ、検出された位置などを含めて何らかの関係が伺われる。

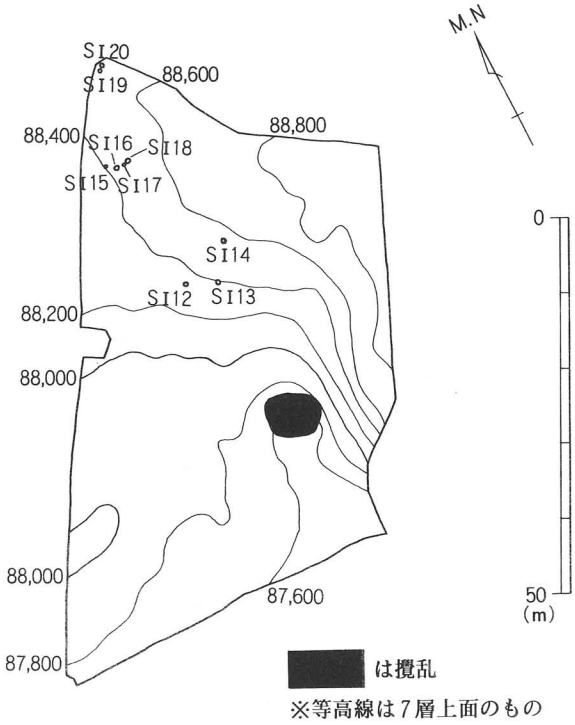


第5図　Ⅱ区平面図(1/1000)

6. Ⅲ区の調査

Ⅲ区では1層（耕作土）以下の大部分に6層（アカホヤ火山灰）が広がっていた。この第6層以下の4面にわたって遺構の検出を行った。6・7層上面では遺構は検出されなかったが、8・9層上面において縄文時代早期の集石遺構が9基検出された。この9基の集石遺構は小規模なものがほとんどで、Ⅰ区のものとは形態的な相違が伺われる。

遺物としては7・8層中よりかなり多くの土器片が出土している。整理中のため詳細は不明だが、縄文時代早期の楕円・山形押形文土器、塞ノ神式土器、平栫式土器などがほとんどである。



第6図　Ⅲ区平面図(1/1000)

第Ⅲ章　まとめにかえて

白ヶ野第3遺跡B地区においては調査の便宜上3つの調査区にわけて調査を実施し、各調査区ごとの概要は前章で述べたとおりである。最後に遺跡全体をとおして各時代ごとの内容を概括してまとめにかえたい。

縄文時代早期ではⅠ区とⅢ区に集石遺構の集中する箇所があり、遺跡内における空間的な利用という点注意される。Ⅰ区ではすでに滅失していたが、Ⅲ区においては2層にわたって良好な遺物包含層が残存していたため、土器の形式的前後関係が追えるかどうかが問題となる。

縄文時代後・晩期ではⅠ区の谷1埋土である4層中から遺物の出土をみたのみで何とも言いがたいが、谷1上位に当たる地区との関連を検討する必要があろう。

古代ではⅠ区における3軒の竪穴住居の在り方が注意を要する。3軒の前後関係をはじめ、周辺遺跡における状況やこのような小規模集落の存在が何に起因するのか検討を要する。

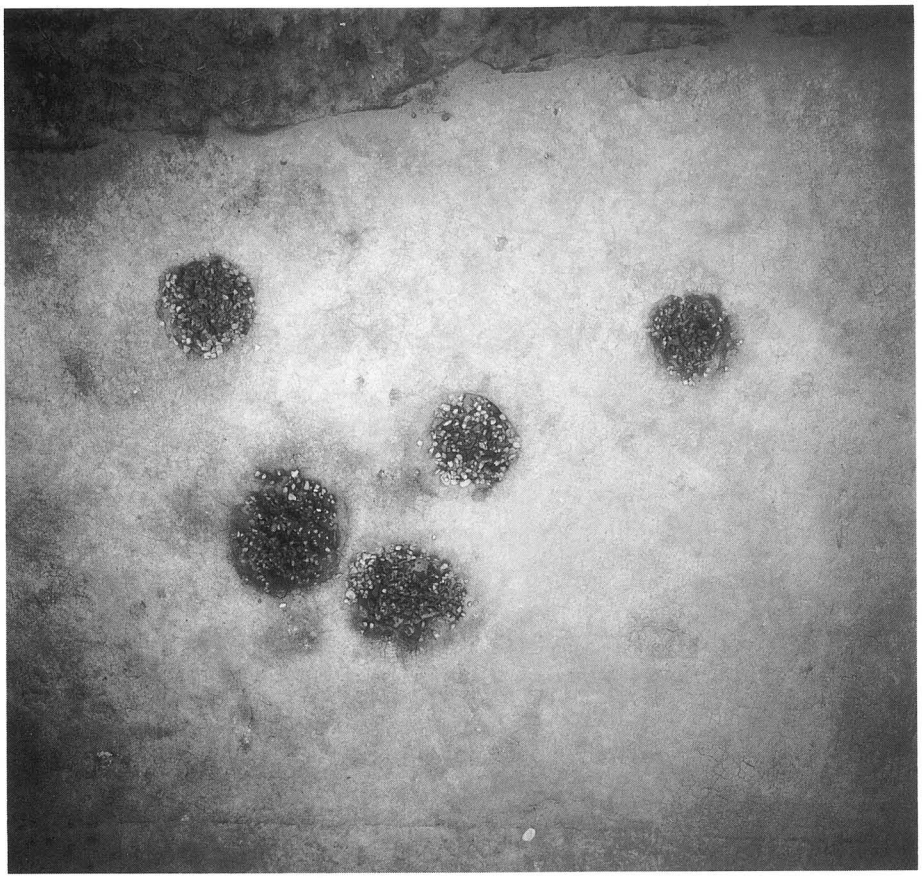
第Ⅰ章で述べてたように本遺跡が立地するこの台地上ではここ数年の複数の開発事業によって広大な面積が発掘調査されるに至った。この結果、旧石器時代から近世にわたる莫大な資料が蓄積され、遺跡の多くは消滅した。今後それらを整理することでより多くの情報を引き出し、各遺跡の関連をさぐる中で、かつてこの地に生活した人々の歴史復元へ向けて努力していきたい。

Ⅰ区西側
遺構分布状況
(4層上面)

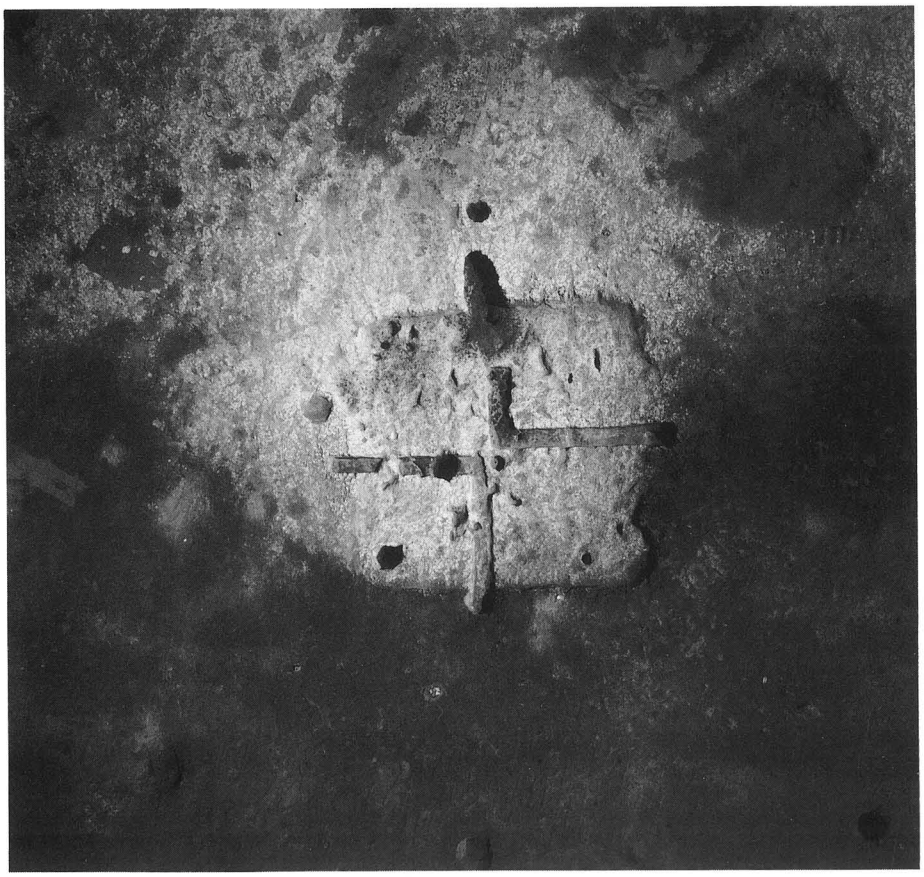
Ⅰ区西側
遺構分布状況
(6層上面)

Ⅱ区東側
遺構検出状況

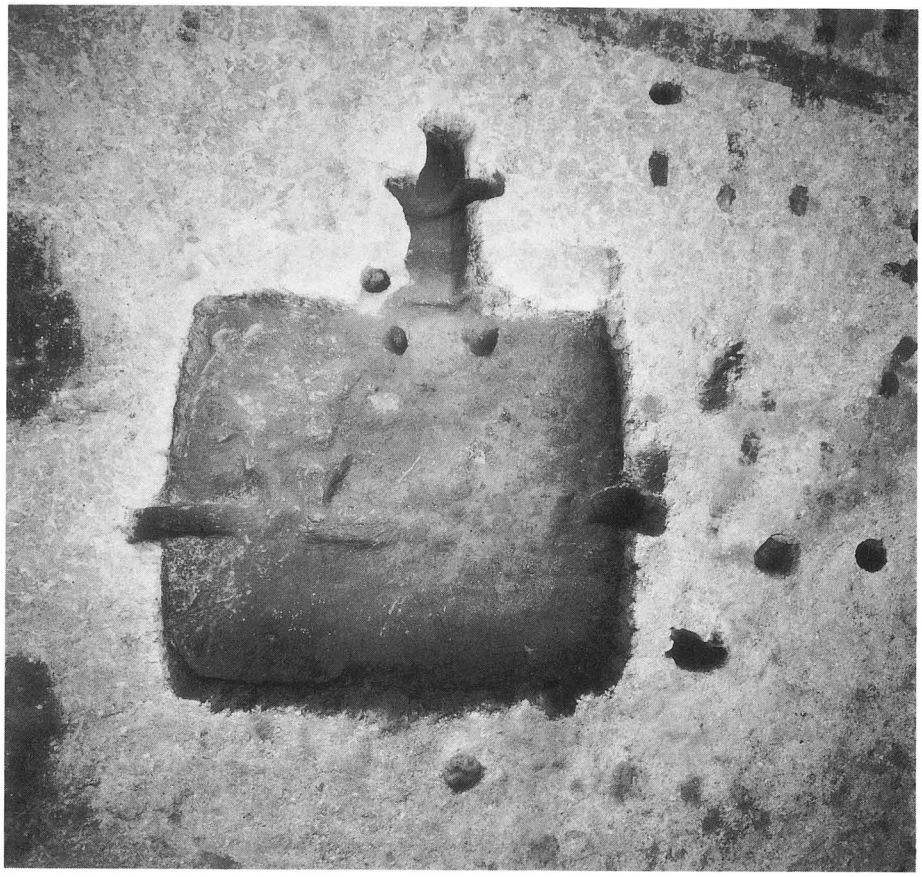
Ⅲ区
遺構検出状況



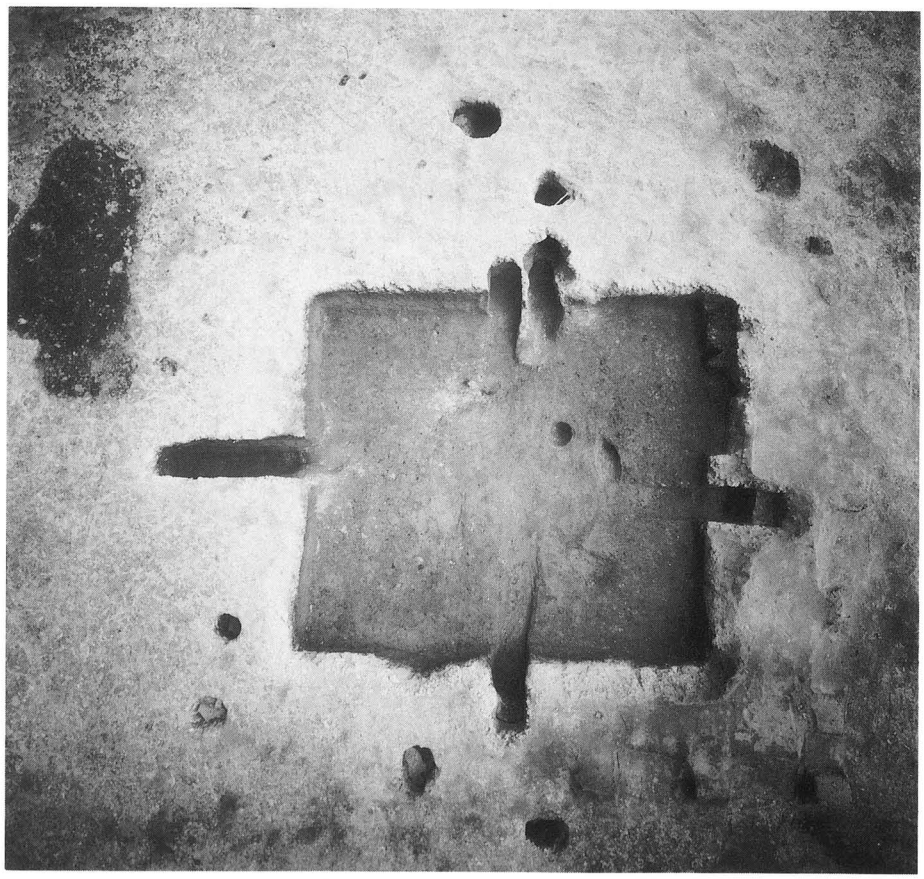
Ⅰ区東側
SI7～11検出状況



Ⅰ区西側
SA1検出状況



Ⅰ区西側
SA2検出状況



Ⅰ区西側
SA3検出状況

白ヶ野第３遺跡Ｂ地区

県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書（３）

１９９７年３月

編集・発行　宮崎県埋蔵文化財センター

印　　刷　㈱宮崎南印刷